



(絵画, 91 x 122)

安珍・清姫伝説

原典　－　清姫の物語は、醍醐天皇（898-930 年）の頃である。延暦寺（京都の北東）の僧鎮源によって“大日本法華験記”（1040-1043 年）という説話集と 1120 年頃今昔物語集（従来、源隆国のものと考えられる）の中に記されました。この物語は、16 世紀初めに書き写され日高川（和歌山県の西岸）に所蔵されていた道成寺縁起絵巻二巻で、701 年に道成寺で発見されました。清姫の物語は、能楽(1510 年頃、能作者世阿弥の孫、観世小次郎信光によって演じられたと考えられる演目、道成寺）、歌舞伎（1744 年に江戸中村座で最初に演じられた初代瀬川菊之丞による演目、娘道成寺）、そして著名な三島由紀夫によって 1953 年に出版された小説に影響を与えています。この物語に関連した絵は、鳥山石燕（1780 年）や歌川国芳(1845 年)、月岡芳年(1890 年)らの妖怪画を引用しています。

物語　－　清姫は、真砂（千葉県）という所の宿屋の主人、清次庄司の一人娘だった。毎年春になると、安珍と言う名の山伏（1322 年に虎関師錬の元亨釈書に初めて話に出てくる）が、紀伊半島の東海岸にある熊野への参拝途中にこの宿に泊ま

った。安珍は若くて美男であった。928 年に年頃の娘になった清姫の欲望をかき立てた。けれども安珍は、参拝中の身分では彼女の誘いを受け入れられないと説明した。清姫はとても激怒し、安珍は困り果てて、宿から逃げた。船で日高川を渡り、道成寺の大きな銅鐘の中に逃げ込んだ。安珍を追いかけ川を渡る間、蛇身となった清姫は、隠れ場所を見つけ、激怒しながら鐘に身体を巻き付けた。清姫の怒りと恨みの力が鐘が解けるほどの炎を放ち、安全だと思った安珍は焼き殺されてしまった。出典により異なるが、清姫も日高川で入水自殺したか、安珍と一緒に焼け死んだ、とある。



(絵画, 76 x 76)

ひとりかくれんぼ

原典　－　ひとりかくれんぼは、限定された順序に基づいて、家庭のインターネットを経て招待された幽霊とかくれんぼをして遊ぶという、ありそうな都市伝説です。最初は 2006 年の 4 月に、2 チャンネル（今は 5 チャンネル）日本のオカルト討論会に投稿されました。それは、かくれんぼ（伝統的なかくれんぼは、参加者の中でじゃんけんによりランダムに決められた鬼が一定の数を数える間に、他の者は隠れる）、“オトコヨ様のお遊戯”（遊んでる者が幽霊に連れ去られる）の両方の要素が取り入れられています。ひとりかくれんぼは、2008 年に海沼智也、2009 年と 2010 年には山田雅史、2012 年には鳥居康剛など、多くの映画脚色の題材となっています。

物語　－　ひとりかくれんぼの遊び方は、まず次に述べる物を

集めなければならない。手足があるぬいぐるみ、米、縫い針、赤い糸、刃物、コップ一杯の塩水と爪切りである。ゲームは午前 3 時ちょうどに始めなければならず、ぬいぐるみの中身を全て出し、米と切りたての爪を入れて赤い糸で縫い合わせる。残った赤い糸は、名前をつけたぬいぐるみを縛るのに使う。それから、次の順序通りに進める。①人形に向かって、“まず、私の番だよ”と 3 回繰り返す。②浴室に行き、ぬいぐるみを水中に沈める（水を入れた浴槽または洗面器）。③浴室を離れ、すべての電気を消し、TV を砂嵐の状態にしておき、目を閉じて 10 まで数える。④刃物を持って、浴室に戻る。⑤ぬいぐるみに向かって、“あなた（人形の名前）を見つけたよ”と言い、包丁で刺す。⑥次に“次はあなたの番だよ”と言い、浴室を出て押し入れに隠れる。必ず常に塩水を持っている事。⑦その場に隠れて、幽霊が来るのを待つ。いくつか注意しなければならない事があり、2 時間以上遊んではいけない、ゲームの最中に家から出てはいけない、電気を点けてはいけない、何か変な感じがしたらすぐにゲームをやめる事である。ゲームの終了方法は、塩水を口に含み（飲み込まない）、カップに残った塩水を人形にかけ、口に含んだ塩水もかけ、“私の勝ちだよ”と 3 回言う。最後に人形を燃やす。

原典　－　骨女は、永遠の愛に生き、この世に縛られた幽霊です。彼女は夜に現れ、まるで生きているように見え、愛する男に会い、次の朝には立ち去ります。会うたびに、恋人の気力を少しずつ奪い、ついには死んでしまいます。一番有名な骨女は、1666 年に僧である浅井了意によって御伽婢子に収められた 68 話のうちの一つ、牡丹灯籠の主人公です。瞿佑（くゆう）の剪灯新話（1378 年）の中に見られる中国の伝説、Mudandeng Ji（牡丹灯籠）に影響を受けました。牡丹灯籠の話は 1914 年に牧野省三によって、1955 年には野淵昶、1968 年には山本薩夫、1990 年に磯村一路によって映画化されました。

物語　－　お露は旗本飯島平左衛門の一人娘で乳母お米と柳島に住んでいる。ある日、お露の所に医者 of 山本志丈が訪ねて来た。その時に若くて美男の侍萩原新三郎が一緒だった。二人はお互いに一目ぼれし、またすぐに会う事を約束した。けれども医者はなかなか仲立ちをしようとしなかった。お露は新三郎に忘れられたと思い、焦がれ死にし、彼女の乳母も後を追って死んでしまった。死んだ者を祭るお盆の夜、新三郎は、手に牡丹灯籠を下げた若い娘二人が訪ねて来るのを見た。それは死んだと聞かされていたお露とお米だった。二人は行く晩も新三郎と過ごし、朝には帰って行った。下男 of 伴蔵は主人の家から物音が聞こえてくるので心配していた。彼が戸の隙間から覗き見してみると、恐ろしい事に、聞こえてい

た話している女は骸骨だった。彼の気配に気づいたお米に脅かされ、観相学者 of 白翁堂勇斎に助けを求めた。彼は、事態の重大さを理解し、新三郎を良石和尚に引き合わせた。そして魔よけのお札と、この幽霊に憑り殺されてしまう新三郎を守るべく家中の入口に貼る為のお札（細い紙帯に経文が書かれている）をもらった。このお札は新三郎の家への二つの霊の侵入を防いだ。しかしながら、伴蔵とその妻お峰はお米の脅かしに負け、金百両でお守りをはがした。次の日の朝、新三郎は骸骨に抱き締められて死んでいるのが見つかった。



(絵画, 61 x 91)

骨女

幽 霊

日本の幽霊の世界



(絵画, 38 x 76)

Geneviève Dupont

(ジャンビエブ・デュボン)

画家

Régis Olry

(レジス・オルリー)

構想と解説



Canada-Japan 90 Years
Canada-Japon 90 ans
日加修好90周年

先祖伝来の話（お岩さん、お菊さん、清姫）であるか、または、都市伝説（ひとりかくれんぼ、口裂け女、テケテケ）であるかに関わらず、言い伝えられており、ラフカディオ・ハーンを初め、多くの作家によって、日本の幽霊は西洋の世界に知られることとなりました。銅版画、文学、漫画、能楽、そして映画などにより、私達は幽霊がどういう外見かを知り、話を聞き、恐れを知り、メッセージに敬意を払うようになりました。日本の幽霊は、恐ろしい生き物という事だけではなく、より苦しんでいる存在であるかもしれないからです。

このパンフレットの中の伝説に加え、展示会には以下の絵画も含まれます。

耳なし芳一、百物語、餓鬼、蜘蛛女、青木ヶ原、産女、さがり、他

耳なし芳一

百物語

餓鬼

蜘蛛女

青木ヶ原

産女

さがり

ADDIS S., **1985** — *Japanese Ghosts & Demons. Art of the Supernatural.* George Braziller, Inc.
BALMAIN C., **2008** — *Introduction to Japanese Horror Film.* Edinburgh University Press.
CALORIO G., **2005** — *Horror del Giappone e dal resto dell'Asia.* Mondo Ignoto S.R.L.
DAVIS F.H., **1913** — *Myths and Legends of Japan.* George G. Harrap & Company.
DEVLIN T.A., **2018** — *Kowabana. 'True' Japanese scary stories from around the internet.* Privately printed, 4 vols.
DEVLIN T.A., **2018** — *Toshiden. Exploring Japanese Urban Legends.* Privately printed.
FAURE E., **2005** — *Histoires japonaises d'esprits, de monstres et de fantômes.* L'Harmattan.
GRAF O., GRAF C., **1925** — *Japanisches Gespensterbuch.* Union Deutsche Verlagsgesellschaft.
HARPER J., **2008** — *Flowers from Hell. The Modern Japanese Horror Film.* Noir Publishing
HEARN L., **2007** — *Fantômes du Japon.* Privat/Le Rocher.
KALAT D., **2007** — *J-Horror. The definitive guide to The Ring, The Grudge and beyond.* Vertical, Inc.
IWASAKA M., B. TOELKEN, **1994** — *Ghosts and the Japanese. Cultural Experience in Japanese Death Legends.* Utah University Press.
LACEFIELD K., **2010** — *The Scary Screen. Media Anxiety in The Ring.* Ashgate.
LEWINSKY-STRÄULI M., **1989** — *Japanische Dämonen und Gespenster. Geschichten aus zwölf Jahrhunderten.* Eugen Diderichs Verlag.
MARTIN R., **1996** — *Mysterious Tales of Japan.* G.P. Putnam's Sons.
MAYER F. H., **1984** — *Ancient Tales in Modern Japan.* Indiana University Press.
MCROY J., **2008** — *Nightmare Japan. Contemporary Japanese Horror Cinema.* Rodopi.
MEIKLE D., **2005** — *The Ring Companion.* Titan Books.
MESNILDOT S. du, **2011** — *Fantômes du cinéma japonais.* Rouge Profond.
MITFORD A.B., **1876** — *Tales of Old Japan.* Macmillan and Company.
MOREY C., **2009** — *Japanese Ghost Stories.* Gomeniko Press.
ROUSSEAU J., MESNILDOT S. du, **2018** — *Enfers et fantômes d'Asie.* Musée du Quai Branly, Flammarion.
SCHAEFER D., **1990** — *Urban Legends and the Japanese Tales.* Institute for Cultural Research.
SMITH R.G., **2003** — *Ancient Tales and Folklore of Japan.* University Press of the Pacific.
STEVENSON J., **1983** — *Yoshitoshi's Thirty-Six Ghosts.* Weatherhill/Blue Tiger.
TAKADA M., **1989** — *江戸怪談集 (Edo Kaidan shuu).* Iwanami-shoten, 3 vols.
TYLER R.L., **1987** — *Japanese Tales.* Pantheon Books.

ジャンビエブ・デュボンとレジス・オルリーは Jennifer Vuong-Nguyen (モデル)、栗原典子 (書)、Stéphane Sobczak (撮影) に感謝します。

問い合わせ先
regis.olry@uqtr.ca

ウェブサイト
gedupont.com